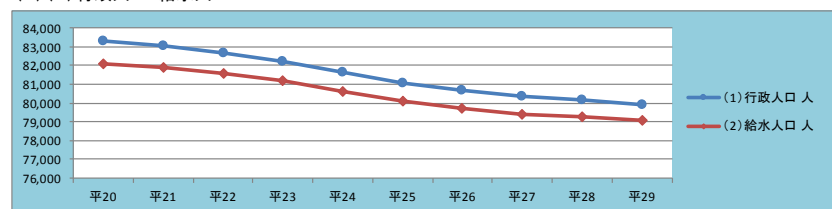


◆飯能市水道事業の財政状況等の推移(平成20～29年度)

区分	単位	平20	平21	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	比較(平29-平20)	
												増減額	増減率(%)
(1) 行政人口	人	83,293	83,054	82,683	82,240	81,619	81,089	80,674	80,364	80,179	79,902	-3,391	-4.1
(2) 給水人口	人	82,109	81,918	81,604	81,196	80,628	80,130	79,728	79,414	79,294	79,042	-3,067	-3.7
(3) 年間総配水量	千m ³	9,985	10,004	10,126	10,157	10,059	10,021	9,965	10,183	10,180	10,149	164	1.64
(4) 年間有収水量	千m ³	9,219	9,159	9,253	8,954	8,890	8,833	8,658	8,747	8,728	8,686	-533	-5.8
(5) 給水収益(上水)	千円	1,262,943	1,252,915	1,271,237	1,218,459	1,209,240	1,199,980	1,178,205	1,345,017	1,352,496	1,343,935	80,992	6.4
(6) 給水収益(簡水)	千円	27,794	27,098	26,916	37,289	35,410	35,263	32,760	38,180	37,293	36,534	8,740	31.4
(7) 水道利用加入金	千円	99,980	74,560	75,220	75,120	75,700	100,560	80,100	90,860	97,000	75,780	-24,200	-24.2
(8) 減価償却費	千円	473,620	494,424	519,733	536,458	556,112	569,138	719,692	757,479	773,706	739,937	266,317	56.2
(9) 企業債支払利息	千円	119,638	101,215	93,280	85,244	79,252	75,118	72,261	68,162	62,267	57,030	-62,608	-52.3
(10) 受水費	千円	69,679	71,897	74,067	76,452	78,270	89,318	89,950	90,096	89,934	89,672	19,993	28.7
(11) 当年度純損益	千円	107,502	82,304	81,489	13,413	-17,520	2,911	21,865	192,823	213,824	173,793	66,291	61.7
(12) 建設改良費	千円	717,864	1,713,876	594,462	719,803	819,696	951,884	1,467,391	800,749	897,013	817,162	99,298	13.8
(13) 企業債残高	千円	3,269,710	2,954,925	2,649,438	2,564,870	2,675,125	2,938,256	3,114,891	3,305,487	3,467,630	3,666,556	396,846	12.1
(14) 補てん財源	千円	2,070,242	1,174,593	1,047,207	1,065,266	1,130,925	1,169,914	561,063	761,750	888,560	960,015	-1,110,227	-53.6

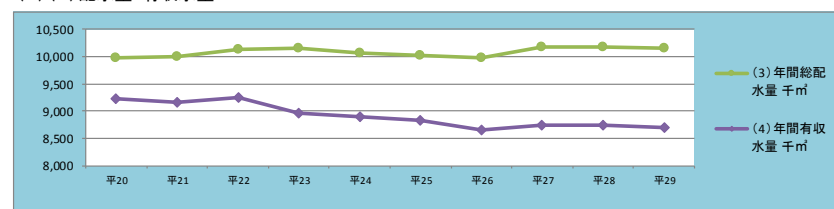
※平成26年度から、改正後の地方公営企業会計基準を適用し、財務諸表等を作成している。

(1)(2) 行政人口・給水人口



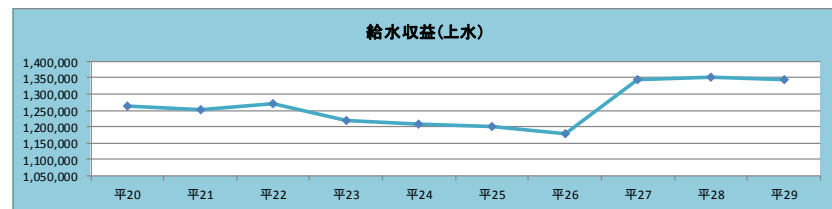
・行政人口及び給水人口は、徐々に減少しており、今後も減少傾向が続くと予想される。

(3)(4) 配水量・有収水量



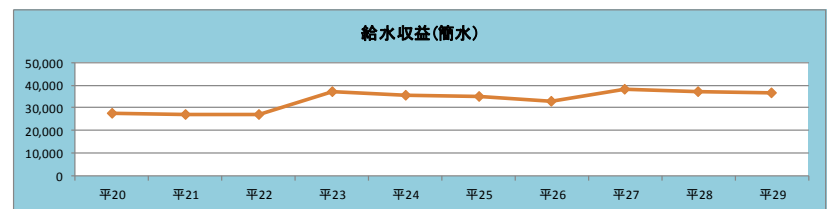
・年間総配水量及び有収水量は平成26年度まで減少傾向であったが、平成27年度以降は大河原工業団地に進出した企業の操業が本格化したことなどにより、大口利用を中心に若干回復した。

(5) 給水収益(上水)



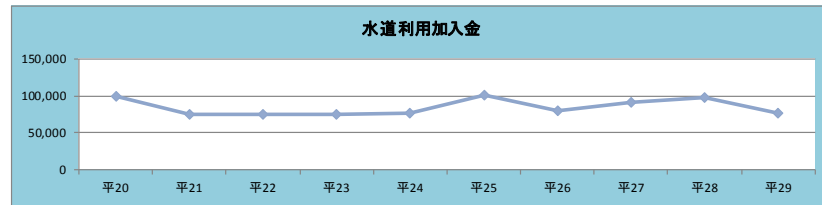
・給水収益(上水)は、給水人口の減少に加え、景気の低迷や節水機器の普及に伴う使用水量の減少により平成26年度まで減少を続けたが、平成27年度に料金改定を実施したこと、加えて以降は企業進出等による大口利用の増加や、水道利用の新規加入件数の増加に伴い、使用水量に影響されない基本料金が増加したことにより、大きく回復した。

(6) 給水収益(簡水)



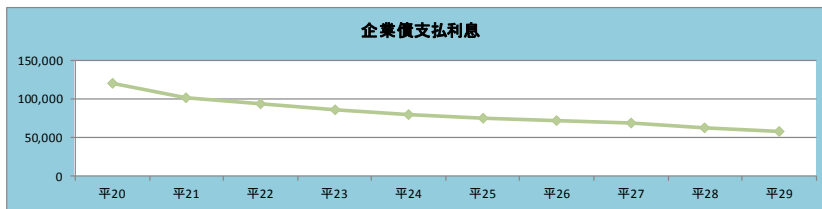
・名栗簡易水道の給水収益は、平成23年度は飯能市水道事業との料金統一により増加し、平成27年度は料金改定を実施したことにより増加したが、給水人口の減少等により徐々に減少傾向である。

(7) 水道利用加入金



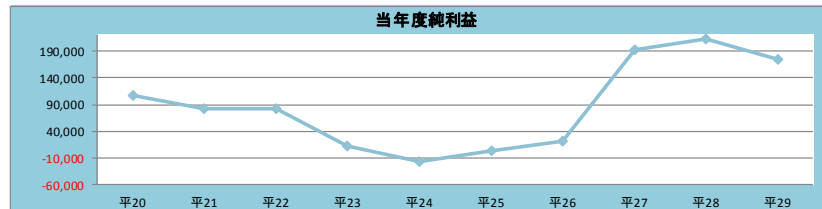
・水道利用加入金は、平成25・26年度には消費税増税に伴う駆け込み需要と、その反動による申請件数の落ち込みがあり、以降は増加傾向にあったが、平成29年度はアパートの建築に伴う口径13mmの申請件数が減少したことにより、再び減少傾向となった。

(9) 企業債支払利息



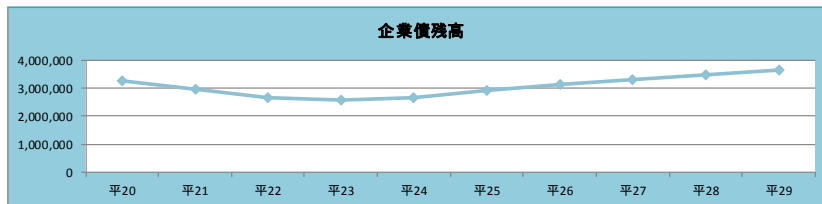
・平成23年度以降は企業債の借入を再開しているが、借入利率が低いことから、減少又は横ばいの傾向が続いている。

(11) 当年度純利益



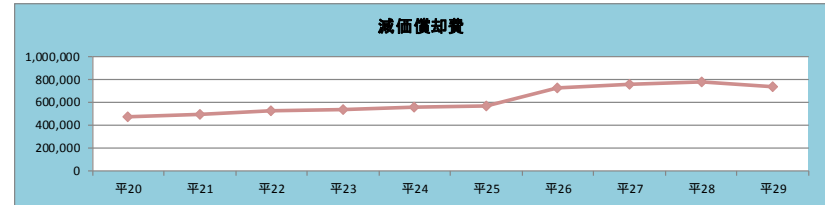
・当年度純利益は、平成24年度に赤字に転換したことによる平成27年度の料金改定実施、加えて以降は企業進出等による大口利用の増加や、水道利用の新規加入件数の増加に伴い、使用水量に影響されない基本料金が増加したことにより、大きく回復した。

(13) 企業債残高



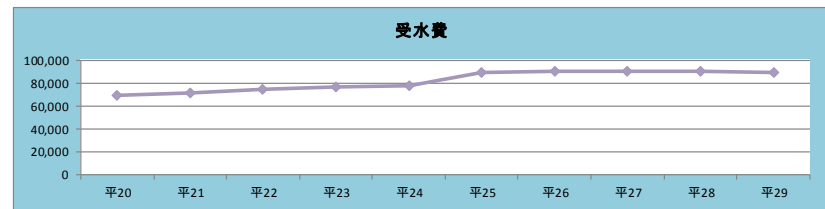
・平成23年度に企業債の借入を再開して以降、企業債残高は増加傾向である。

(8) 減価償却費



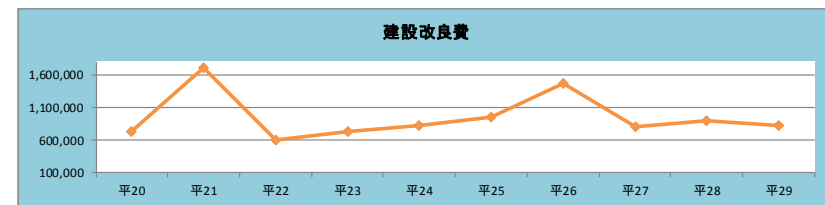
・減価償却費は、前回の水道事業基本計画である飯能市地域水道ビジョンの期間は(平18年度～27年度)、それに基づく老朽管や浄水施設等の更新工事を実施したこと、加えて平成26年度に地方公営企業会計制度の見直しに伴い、旧みなし償却資産に係る減価償却費を加算したことにより大幅に増加した。平成28年度以降も新たな飯能市水道ビジョン-経営戦略プラン-(平成28年度～37年度)に基づき、引き続き老朽管・施設の更新を実施するため、減価償却費は増加の予定である。

(10) 受水費



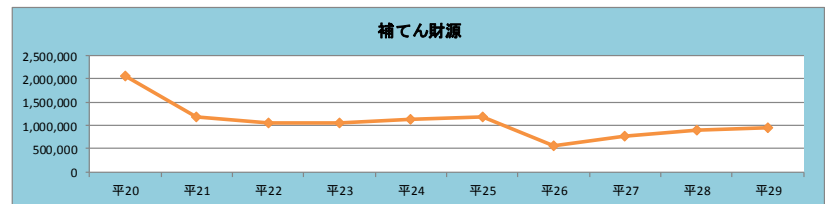
・県水受水費は埼玉県との協定に従い年々増加させてきたが、平成25年度以降は、浄水施設等再構築事業が完了する平成30年度まで、受水量(4,000㎥/日)を据置としている。

(12) 建設改良費



・建設改良費は平成21年度と平成26年度が突出しているが、前者は配水池の築造、後者は導送水管布設替工事と、ともに継続事業に係る支出で、老朽管や浄水施設等の更新工事等による増加傾向と合わせて、前回の水道事業基本計画である飯能市地域水道ビジョン(平18年度～27年度)に基づいたものである。平成28年度以降は新たな飯能市水道ビジョン-経営戦略プラン-(平成28年度～37年度)に基づき、年度ごとの更新費用の平準化を図りながら事業を実施する予定である。

(14) 補てん財源(内部留保資金)



・平成21年度と平成26年度の二度の継続事業に係る支出により、補てん財源(内部留保資金)は大きく減少したが、平成27年度の料金改定などで収益が回復したことにより、こちらも回復傾向にある。